鳴門教育大学授業実践研究
－授業改善をめざして－
第18号　2019

いじめ防止を目指した道徳科の授業実践研究
── いじめの四層構造にある児童の心情を通して ──

斉藤想能美*，池田　誠喜**

（キーワード：いじめ，道徳科，四層構造）

Ⅰ．はじめに

1. 今日のいじめ問題

「平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省，2017a）では，小中高におけるいじめの認知件数は18万件を超えており，いじめの早期発見早期解決を図るために取り組まれた結果の認知件数の数には，いじめ問題への取り組みの必要性が示されている。

文部科学省（2017b）が文部科学大臣決定として示した，「いじめの防止等のための基本的な方針（平成29年３月改定）」によると，いじめ防止のために国が実施すべき施策として，学校教育活動全体を通じた豊かな心の育成をあげて，社会性や規範意識，思いやりなどの豊かな心を育むため，学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進することが示された。さらに，平成28年11月に発信された文部科学大臣メッセージでは，「平成30年度から全面実施となる『特別の教科　道徳』の充実が，いじめ防止に向けて大変重要であると思っています。～」と述べられ，国の施策として，いじめ防止のために道徳科の取り組みを重視していることが示されている。

2. いじめ防止のための道徳科授業

田中ほか（2017）は，いじめ問題に対応する小学校の道徳授業の構想を示すとともに，実践についての報告をしている。そこでは，文部科学省の研究開発学校の武蔵村山第八小学校（2017）の実践成果として問題解決的な学習が有効であることが示された。さらに，田中ほか（2017）は，体験活動が道徳科と関連づけられたり授業に取り入れたりすることで，児童に認知的な側面である思考力・判断力，行動力側面である行動力・習慣を身につけることが期待できるとしている。

さらに，いじめ防止のための道徳科授業への改定として，平成27年に改定された小学校学習指導要領（文部科学省，2015）の道徳科におけるポイントの一つとして，いじめ問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものへの改善が示されている。特に，小学校は，「個性の伸長」「公正，公平，社会正義」，「相互理解・寛容」「国際理解，国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容が追加されたと同時に，教科化による指導の質的転換が求められ，読み物の登場人物の心情理解にのみ偏り，価値観の読み取りに終始する指導ではなく，子供たち自身が考え議論する道徳へ転換することを目指すよう示されている。

3. 道徳科の学習活動

浅見（2018）は，平成30年度道徳教育指導者養成研修において，道徳科の授業の充実を図るにあたり，道徳科の学習が，①道徳的諸価値の理解を基に，②自己を見つめ，③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める，ことの４点を通して道徳的な判断力，心情，実践意欲を育てることを述べており，道徳科の学習活動として上記の４点が授業の中で行われる必要性を示している。

これらの学習活動は，新学習指導要領で示され平成30年度から実施されている「主体的・対話的で深い学び」について，道徳科も同様の学びが求められる中，浅見（2018）は，主体的な学びとして，「問題意識を持つ」「自分自身との関わりで考える」「自らを振り返る」を，対話的な学びの視点として「協同し，対話する」「多面的・多角的に考える」ことを関連づけている。また，深い学びについては，教師が道徳科のねらいを踏まえた学習活動について指導の明確な意図を持つことも述べている。このような浅見（2018）の示した道徳科の学習活動は，いじめ防止に役立てる道徳科を構想するにあたり，道徳科の授業として高い質の授業を実施するために達成しなくてはならないことであり，道徳科がいじめ防止に寄与する学習となるための必要な学習活動として留意しておくものと考えられる。

*鳴門教育大学附属小学校
**鳴門教育大学　高度学校教育実践専攻（教職系）

4. テーマ発問による授業形態

いじめ防止のための道徳科の授業をさらに具体的に構想するにあたり，主体的・対話的で深い学びとなる授業に寄与する授業形態として期待できるものに永田（2014）によるテーマ発問型の授業形態があげられる。永田（2014）によると，この授業形態は，資料のテーマ（道徳的価値）そのものを問う発問を取り入れた授業で，人物の気持ちや行為の理由などは場面発問と呼び区別して用いている。テーマ発問の特徴として，第一に，主人公の気持ちではなく子供自身の考えを問うこと，第二に，資料や話の全体に着眼すること，第三に，授業や資料の主題にかかる直接的な発問，第四に，子供の生き方につながる考えを直接語ることが示されている。

5. いじめの４層構造

森田（2010）は，いじめが，被害者を囲んで加害者，観衆，傍観者の四層の子どもたちが絡まりあった構造の中で起こっていることを明らかにしている(図１)。さらに，いじめを防止するという意味では，加害者―被害者の関係に目を奪われがちだが，周囲の反応によっていじめに歯止めがかかることを心得ていることが大切であることを述べている。この四層構造は，学級経営やいじめ防止のための指針として理解されている。また，道徳科の指導においても四層構造を取上げた授業が報告されている（例えば，中島　2015)。

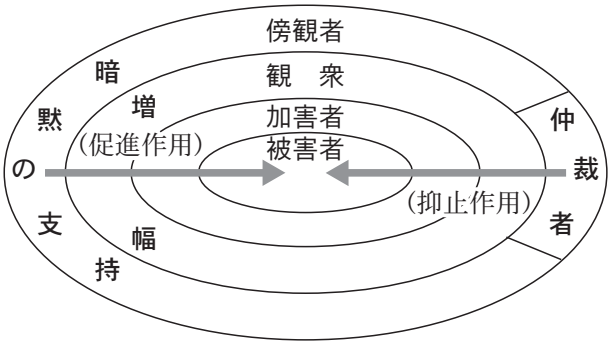

図１　いじめの四層構造　（出典　森田 2010）

Ⅱ．研究の目的

本実践研究の目的は，小学校のいじめ防止のための道徳科の授業として，道徳科年間指導計画に基づき，いじめ関連内容項目「公正・公平・社会正義」を取り上げた授業において，①道徳的価値の理解，②自己との関わり，③多面的・多角的な捉え，④自己の生き方について考える，４つの学習活動を展開し，その成果と課題について検討することを目的としている。

Ⅲ．方　法

1. 対象

対象　大学附属小学校　６年生（32 名）

2. 時期

平成Ｘ年７月

3. 方法

本実践では，道徳科の年間指導計画のうち，いじめ防止のための重点的内容とした内容項目「公正・公平・社会正義」（高学年Ｃ－13）による，同一資料での２時間連続の授業構成で，いじめ防止を図る道徳科授業の実践を行った。

授業の効果の検証として，授業の様子及び振り返りノート記述を分析し実践の成果と課題を検討した。

Ⅳ．学習支援の工夫

1. 授業構成上の工夫

１）いじめ防止のための道徳科指導重点内容項目

平成 27 年３月の「特別の教科　道徳（道徳科)」についての学習指導要領の改正で，道徳科の内容について「個性の尊重」「相互理解・寛容」「公正，公平，社会正義」「国際理解，国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目が追加され，いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものになるよう改善が図られた。本稿ではそのうちの，「公正，公平，社会正義」を取り上げた実践を報告する。

２）いじめを題材にした資料

資料として，「泣き虫」(『道徳　５年　きみがいちばんひかるとき』光村図書）を用いた。

学級におけるいじめを題材とした資料で，いじめについて自分自身　登場人物の言動を通して，不公正・不公平の内容項目にかかわる資料である。登場人物の心情に共感することが期待できる資料である。

３）学習活動の設定

小学校学習指導要領解説（文部科学省，2017c）で示された学習活動を授業に設定する。

ａ．道徳的諸価値の理解にかかわる学習活動
ｂ．自己を見つめることにかかわる学習活動
ｃ．物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動
ｄ．自己の生き方についての考えを深めることにかかわる学習活動

４）いじめの四層構造の心情に触れる機会を持たせる

２時間の授業設定。１時間ごとに取り上げる登場人物を変えることで，児童が共感する登場人物が複数名上がることが予想される。そこで，児童が自我関与の対象を１時間ごとに変えることで，四層構造の被害者，加害者，観衆，傍観者のいくつかに自己を当てはめる機会が創出されることが予想される。それぞれの立場において道徳的価値に触れることにより，学習活動の広がりと深まりを創出する。

５）２時間の授業におけるそれぞれのテーマ発問の設定

２時間連続の道徳科の授業で同じ内容項目と資料を用いるが，第一次授業で考えたテーマを踏まえ，第二次授業のテーマを設定。

６）黒板シアターによる構造化された板書

黒板を使い，登場人物の言葉やイラスト，フラッシュカードなどを用いて資料のストーリーを追う黒板シアターを用いた。登場人物の心情と言葉が黒板に常時提示するとともに，児童の意識と授業の流れを構造化して示した。

2. 授業展開上の工夫

１）道徳的諸価値についての理解にかかわる学習活動

①　テーマ発問

永田（2014）の示すテーマ発問型の授業形態を実施し，いじめ防止の重点内容項目として用いる【公正・公平・社会正義】（高学年Ｃ－13）の資料を通して，設定したテーマを子供たちに投げかけることにより，いじめ防止に欠かせない道徳的諸価値について，直接的に考える機会を子供たちに与える。

授業開始後間もなく，テーマについて，「あなたはどのように考えるか」と問い，提示したテーマに対する自分自身の考えを明確にする学習活動を行う。その後，ディスカッションなどを通して広がり深めた道徳的諸価値の理解のうえに，テーマについて再度考える機会を与えることで，道徳的諸価値についての理解を深めることが期待できる。

②　イメージマップ

ノートにテーマに対するイメージマップを描き，自身の考えを確認する。また，黒板横に設置したホワイトボードを用いて，テーマ発問に対する児童の回答をイメージマップに整理し，テーマに対する様々な考えを子供たちの前に示すことで，道徳的価値の広がりが期待できる。

２）自己を見つめることにかかわる学習活動

①　場面発問とテーマ発問の活用

主人公に自分を重ねる場面発問による共感的で投影的・自己置換的な関与の深まりと，テーマ発問による主人公の客観的分析とクリティカルな把握により，主人公の気持ちを明らかにしながらも自分自身の気持ちや考えについて意識しやすくなるよう支援する。

②　学習ツールの活用

登場人物の気持ちに関わる場面発問に対して，子供たち自身が最も共感した箇所に貼り付けるハートの形をした学習ツールカードを用いることにより，言語化できない微妙な感情を意識化できるようにする。

３）物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動

①　話合い活動

・場面発問に対するペアトークとグループトーク

隣合う児童同士で話し合うペアトークにおいて，お互いの考えに触れるとともに，自分自身のことを述べることにより，自身の考えを整理するとともに，グループトークへの準備になる。グループトークでは，自分自身の発言が少なくなる分，じっくり聴き考える機会がペアトークよりも増加することを踏まえて，考えを広め整理できるようにする。

②　学習ツールの活用

資料について，登場人物の気持ちに児童自身が最も共感した箇所にハートカードを貼り，自分自身の感情との違いを比較することにより，様々な感情が沸き起こること，人によって違うことなど，多面的・多角的に捉える。

４）自己の生き方についての考えを深めることにかかわる学習活動

①　テーマ発問の活用

テーマ発問によりテーマについて自分自身の考えを統合し，関連する価値の明確化を図る。

②　ノートを用いた振り返り

授業の振り返りをノートに記述することにより，自分自身の生き方について考える機会とする。その際，テーマ発問に対する考えを取り上げた道徳的価値に統合させながら考えが深まるようにする。

3. 学習計画

２時間の道徳科の学習計画として，第一次の指導案と学習活動（表１），第二次の指導案と学習活動（表２）をそれぞれ示す。指導案は活動の時間配分，児童の活動，教師の支援に合わせた道徳科での学習活動を a. ～d. で右横に示した。

Ⅴ．　教育実践の実際

1．教育実践の実際

授業は第一次，第二次の２回連続で実施した。本稿では，主に第一次の授業の実際について報告する。

１）主題名「正しいことは正しい」Ｃ－(13)

留意する事柄（文部科学省，2017）

・誰に対しても差別することや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。

２）授業者の主題設定の理由と道徳的価値の検討

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（文部科学省，2017c）には，「社会正義は，人として行うべき道筋を社会にあてはめた考え方であり，社会正義を実現するためには，その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め，思いやりの心などを育むようにすることが基本になければならない。集団や社会において公正，公平にすることは，私心にとらわれず誰にもわけ隔てなく接し，偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである」と示されている。ここでは，内容項目の「公正・公平」を取り上げるにあたり，内容項目「思いやりの心」がその基盤となることが示唆されている。本実践では，「公正･公平」を取り上げた授業構成としているが，授業の中で児童が「思いやり」などの内容項目について考える機会が出てくることが想定される。本実践では，その点を「公平・公正」の価値観の増強に寄与するものとして捉えて授業を進めることとしている。

さらに，内容項目「公正・公平」にかかわる社会正義の実現を妨げる人々の差別や偏見について，人間は自分と異なる考え方や感じ方，多数でない立場や意見などに対する偏った見方，自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方について考えさせたい。いじめの問題は，このような人間の弱さが起因している場合が少なくない状況が見られる。所属する一人一人が確かな自己実現を図ることができる社会を実現するためには，そのような人間の弱さを乗り越えて，自らが正義を愛する心をはぐくむようにすることが不可欠である。

３）資料の概要

本資料「泣き虫」（『道徳　５年　きみがいちばんひかるとき』光村図書）は，泣き虫の勇気くんが，ひきょうなことに泣きながらたちむかうことを中心に描いた内容である。彼の言動を通して，不公正・不公平な言動のひきょうさや正義の実現に向けた意思の力の貴重さに気付くことができる資料である。登場人物の勇気くんの言動に心を動かす語り手の「わたし」の心情に共感すること

表１　第一次　授業　指導案　学習活動

時間	児童の活動 ○は主な教師の発問 ・は予想される児童の発言	教師の支援	道徳の学習活動
5分	１本時の学習のテーマを確認する。 ○「いじめをなくす」ってどういうことでしょう。 ・注意する ・先生に言う ・止める	・「いじめをなくす」とはどういったことかを問い，道徳ノートに考えを記述させ，本時の学習テーマについて自分の感じ方や考え方を自覚することができるようにする。	a. 道徳的諸価値の理解にかかわる学習活動 b. 自己を見つめることにかかわる学習活動 c. 物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動
25分	２資料の「泣き虫」を読んで，テーマについて話し合う。 （登場人物について話し合う） ○「わたし」の気持ちに共感できるところはどこですか。 （テーマについて話し合う） ○「わたし」が泣いたのはなぜでしょう。 ・自分のしたことへの後悔の気持ちから。 ・これから変えていこうと思う決意の気持ちから。 ・なぜかわからないけど涙が出る。 ○最初に「いじめをなくす」に対して考えていたことをもう一度振り返ってみましょう。	・登場人物（主にわたし）の心情を中心に話し合う際，ハートカードを提示する場を設け，詳しくとうことにより，児童一人一人が自分の思いを表出することができるようにする。 ・迷ったり考え中だったりして表出できない児童には，友達の意見を聞いて表出するように声をかけることによって，じっくりと自分の考え方や感じ方を見つめることができるようにする。 ・導入の際に問うたテーマ「いじめをなくす」で表出された児童の意見をもう一度見直すように促し，資料に自分たちの意見と同じものがあるかどうかを問う。 ・「わたし」の涙の意味を自分の生活と重ね合わせながら考えることができるようにする。 ・板書に示した意見を基として，「わたし」の心の変容を問い，視覚化することにより，「わたし」がどの段階で公正・公平の内容項目を考えるようになったのかを考えることができるようにする。 ・『みんなが泣いていることは「みんなのする通りに自分もする」ことが嫌だから泣いているのではないか』と，問い直すことにより，「わたし」やクラスのみんなが同情やその場の雰囲気で泣いているのではないことを捉えることができるようにする。	b. 自己を見つめることにかかわる学習活動 c. 物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動
10分 5分	３自分たちの生活について振り返る。 ○黒板に提示された「わたし」の変容の中で示すならば，今の自分はどのあたりにいると思いますか。 ４本時の学習を振り返る。 ○今日の学習で学んだことをノートに書きましょう。 振り返りシールも選びましょう。	・黒板に提示された意見を基に，今の自分がどのあたりの心情や状態にあるかを，指を差すように声をかけることにより，児童一人一人が自分はどうであったかを振り返ることができるようにする。また，その根拠を問うことにより，具体的に自分の生活と関連づけて考えることができるようにする。 ・振り返りにどのように書いたらいいか迷っている児童には，ノートの表記を基に，どんなことが心に残ったかを問うたり，これからの自分はどうありたいと考えたかを問うたりすることにより，振り返りに具体的に自分の考え方や感じ方を表記することができるようにする。	d. 自己の生き方についての考えを深めることにかかわる学習活動 a. 道徳的諸価値の理解にかかわる学習活動

表２　第二次　授業　指導案　学習活動

時間	児童の活動 ○は主な教師の発問 ・は予想される児童の発言	教師の支援	道徳の学習活動
5分	１本時の学習のテーマを確認する。 ○「本当の仲間」ってどういうことでしょう。 ・助け合う ・思いやる ・楽しい	・「いじめをなくす」とはどういったことかを問い、道徳ノートに表記するよう促すことにより、本時のテーマについて自分の感じ方や考え方を自覚することができるようにする。	a. 道徳的諸価値の理解にかかわる学習活動 b. 自己を見つめることにかかわる学習活動 c. 物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動
25分	２黒板シアターにより前時の資料「泣き虫」振り返り、テーマについて話し合う。 （登場人物について話し合う） ○「勇気くん」「藤井くん」の気持ちはどんなだっただろう （テーマについて話し合う） ○「勇気くん」が助けたのはなぜでしょう。 ・自分のしたことへの後悔の気持ちから。 ・これから変えていこうと思う決意の気持ちから。 ○「藤井くん」の気持ちはどんなだったのだろう。 ・自分への後悔の気持ちから。 ・これから変えていこうと思う決意の気持ちから。 ○「本当の仲間」に対して考えていたことをもう一度振り返ってみましょう。	・登場人物（勇気くん・藤井くん）の心情を中心に話し合う際、ハートカードを提示する場を設け、詳しく問うことにより、子ども一人一人が自分の考えを表出することができるようにする。 ・迷ったり考え中だったりして表出できない子どもには、友達の意見を聴いて表出するように声をかけることにより、じっくりと自分の考え方や感じ方を見つめることができるようにする。 ・導入の際に問うたテーマ「本当の仲間」で表出された子どもの意見をもう一度見直すように促し、資料の中に自分達の意見と同じものがあるかどうかを問う。 ・「勇気くん」「藤井くん」の気持ちを自分の生活と重ね合わせながら考えることができるようにする。 ・板書に示した意見を基盤とし、「勇気くん」「藤井くん」の心の動きを問い、視覚化することにより、「勇気くん」「藤井くん」の公正・公平にかかわる考えへの理解を深める。 ・『みんなが泣いていることは「みんなのするとおりに自分もする」ことが楽だから泣いているのではないか』と、問い返すことにより、「わたし」やクラスのみんなが同情やその場の雰囲気で泣いているのではないことを捉えることができるようにする。	b. 自己を見つめることにかかわる学習活動 c. 物事を多面的・多角的に考えることにかかわる学習活動
10分			
5分	３自分たちの生活を振り返る。 ○黒板に提示された「わたし」の変容の中で示すならば、今の自分はどのあたりにいると思いますか。 ４本時の学習を振り返る。 ○今日の学習で学んだことをノートに書きましょう。 振り返りシールも選びましょう。	・黒板に提示された意見を基に、今の自分がどのあたりの心情や状態にあるかを、指をさすように声かけすることにより、子ども一人一人が自分はどうであったかを振り返ることができるようにする。また、その根拠を問うことにより、具体的に自分の生活と関連付けて考えることができるようにする。 ・振り返りにどのように書いたらいいかを迷っている子どもには、ノートの表記を基に、どんなことが心に残ったかを問うたり、これからの自分はどうありたいと考えたかを問うたりすることにより、振り返りに具体的に自分の考え方や感じ方を表記することができるようにする。	d. 自己の生き方についての考えを深めることにかかわる学習活動 a. 道徳的諸価値の理解にかかわる学習活動

が期待できる資料である。いじめの四層構造視点からは傍観者として語られている資料である。

４）本時のねらい

正しいことを正しいと言うことの大切さを知り，だれに対しても公正・公平に振る舞おうとする心情を育てる。

５）授業の実際

【１．テーマ発問】

・本時の学習のテーマを考える

第一次の授業のテーマ発問「いじめをなくす」に対する自分自身の考えをノートにイメージマップ（図２，図３）として描いた。例えば，「注意」「なくしたい」「なぐさめる」「やめさせたい」など，いじめをなくすための自分自身の考えを書いていた。一方で，「自分には関係ない」「自分もされるかも」「めんどうくさい」「ドキドキする」など，出来ないことや不安についても記入されており，児童がノートに自分自身の気持ちや他の人の状況をイメージして記入していた。ノートへの記入を見ると多くの児童が，被害者，加害者，観衆，傍観者といういじめの四層構造にある立場の状況をある程度理解していることが見受けられた。

続いて教師がホワイトボードに児童の描いたイメージマップの中から，児童がいじめをなくすために必要だとか大切だとか感じたことを聞き取り，ホワイトボードに

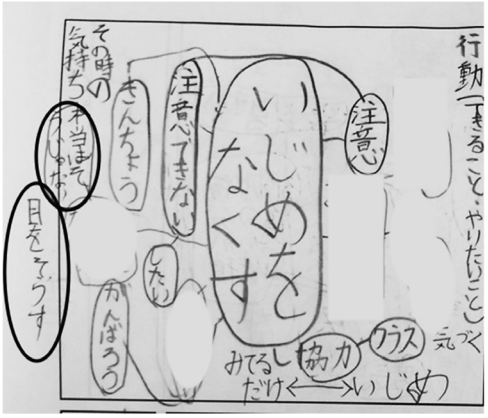

図２　第一次　授業　ノート・イメージマップ①

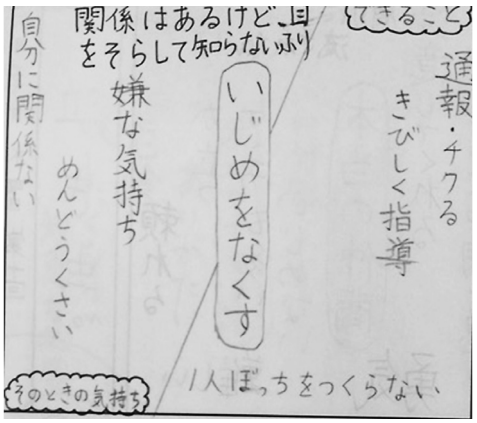

図３　第一次　授業　ノート・イメージマップ②

示した（図４）。児童は，ホワイトボードに示されている他の児童の考えを自分のノートにイメージマップに付け足していた。ここでの活動により，児童が本時の内容の主題に見当をつけることになり，以降，資料を読む際に考えることの方向性を暗に示すことになったと考えられる。

テーマが身近に潜んでいる「いじめ」の問題である事，他者の考えがホワイトボードに整理され，「いじめをなくす」というテーマ発問に対して自分自身では思いつかないような考えに触れる機会になった児童も見られた。

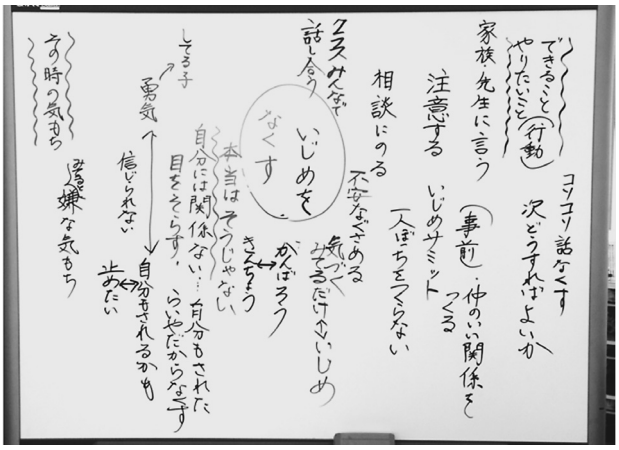

図４　第一次　授業　ホワイトボードでのテーマ整理

【２．資料を通したテーマについての話し合い】

・登場人物について話し合う

授業での板書内容を図５に示す。

語り手の傍観者としての気持ちの動きを追って黒板シアターの手法を用いて板書を行った。資料の登場人物の気持ちに共感したり，自分自身の感情が動いたりする箇所にハートカード（**ピンクハート**【主に心があたたかくなる】と**ブルーハート**【主に心がつめたくなる】）を貼りに行く時間を設けた（図５）。ハートカードは児童の感情が互いに明確に見える化できるツールとして用いた。このハートカードを貼る場所を選んだ根拠を問うことにより，それぞれの考え方や感じ方の詳細を児童同士聴き合うことができた。また，ハートカードを貼ることで，全員の気持ちや考えを示すことができ，授業へのコミットメントを高めるのに有効であった。

ハートカードの色を考えながら貼ったり，貼る場所を悩んだりする児童の姿が見られたが，最終的には２箇所に多くのカードが集約された。一人だけという箇所が２箇所あったが，その箇所も授業内で取り上げて検討した。本時では，語り手の傍観者としてではなく，自分を守るために実は観衆の立場にもなっていたという箇所へのハートカードが多かった。

中心的な発問として，「私が泣いたのはなぜでしょう」とした場面発問として問い，語り手がどの段階で公正・公平の内容項目に対する価値が動いたのかを考える時間とした。さらに，ペアトークとスクランブルトークを行い，様々な考えに触れられたとともに，他者との対話の中で，理由を聴きあうなど考えを深めあっていた様子が見られた。この時点で，資料に対する多面的・多角的な学習活動が見られた。

・テーマについて（再）の話し合い活動

資料の登場人物の気持ちに対しての共感と自分自身の感情の動きにより，内容項目に対する重み付けが変化することを意図した話し合い活動を行なった後に，再度テーマに対する発問を投げかけ，　資料を通して様々対話し考えた結果を基に，自分自身でテーマについて考えた後に，教師によりホワイトボードに児童らの発言が整理された。

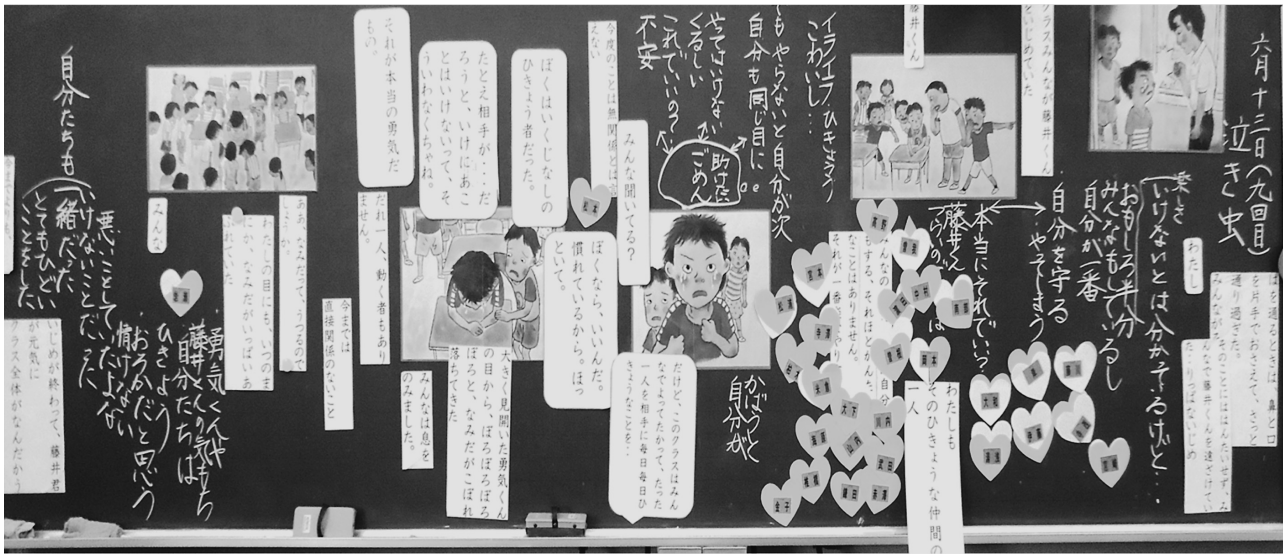

図５　第一次の板書

【3．自分たちの生活について振り返る】

・学習の振り返りでのイメージマップ作り

学習の振り返りを行い，ノートに記述しながら自己対話を行った。振り返りの記述には，「他者」の意見を聴いて考えが変わったこと，「他者」の意見を聴いてなお一層納得したこと，自分の経験と照らし合わせて考えたことなどがある。「他者」の意見を反映して，自分の考え方や感じ方に対する記述に加筆したり修正したりしていた（図6，図7）。

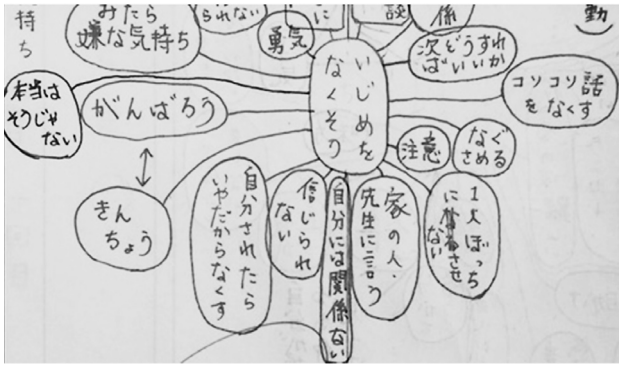

図6　第一次　授業　ノート・イメージマップ③
振り返り時

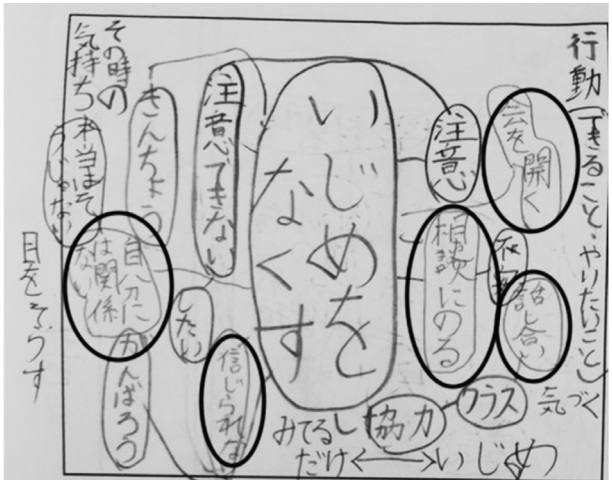

図7　第一次　授業　ノート・イメージマップ④
振り返り時

・学習の振り返りによる自己対話

学習の振り返りとして追記修正したイメージマップを参考にしながら，ノートに本時の内容と自分の生活や生き方について振り返りながら考える作業を行なった。ノートに記述しながらの自己対話の作業が行われていると考えている（図8）。

6）第二次の授業内容

第二次の授業は，いじめの四層構造の被害者，傍観者から出現した仲裁者に着目した授業展開を実施した。ねらいや主題，授業展開は第一次の授業と同様の展開を試みた。テーマ発問は「本当の仲間」とし，「公平・公正」の価値観のベースになる「相手を思いやること」も重ねながら公正・公平に迫ることを意図して授業を進めた。

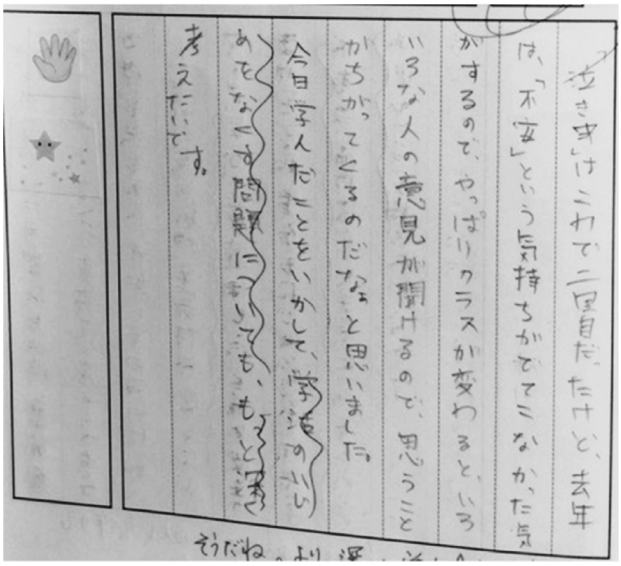

図8　第一次　授業　ノート・生き方を考える
振り返り時①

Ⅵ．成果と課題

1．ノート記述と授業の様子から「ねらい」に迫る成果

本授業実践の成果を道徳ノートより探ると，「わたしはいじめを見たら，注意するのは怖いから，まず，相談に乗ってあげればいいかなと思います。私も，語り手みたいに見ているだけというのは減らして，みんなの嫌なことをなくしたいと思います。」と記述した児童がいた。この児童の記述からは，授業を通して自分が傍観者として感じていることがわかる。自分自身に照らし合わせて自分のこととして考えた時間になったものと推察される。

また，「私も反対するのは怖いと思うし，わたしだっていじめられるのは怖いです。でも，○○くんのように勇気をだしていうことが本当に大切なことだとわかりました。もしかしたら，いじめになっているかもしれないと思うので，頭を働かせて友だちなどと付き合っていきたいと思います。」という記述からは，傍観者に自分自身を重ねながら，資料を通して感じた仲裁者としての登場人物の振る舞いに，内容項目の「公正・公平」にかかわる道徳性が揺り動かされ，道徳的価値への重みが変化する兆しが感じられた。

このように，紹介した記述例からは，いじめの四層構造として登場人物をみることにより，それぞれの立場に自分自身を重ね合わせ，より深く自己を見つめることを可能とし，ねらいとする内容項目のだれに対しても公正・公平に振る舞おうとする心情を育てることについて，限

定的ではあるが成果が見られたものと考えることができる。

一方で，いじめが起こっても，たぶんぼくは『わたし（語り手）』と同じように自分には関係ないと思って，○○くんのような人が出てくることを願うと思う。つまり解決を待つだけになると思う。」と記述した児童がいた。この児童の記述からは，授業を通して傍観者としての自分自身に照らし合わせて考えている姿が見て取れる。自分のこととして考え，なかなか思うようには進めないという状況と生き方について考える時間になったものと考えられる。

さらに，テーマ「本当の仲間」として実施した第二次授業での振り返り記述からは「正しいことをする仲間を作っていきたいと思いました。なぜかというと正しいことをする仲間がいれば，難しいことでも仲間がいればできるからです。」や「仲間は助け合ったり，注意したりするものだと私は思います。なので，クラスのみんなと友だちであり仲間である関係になりたいです。」という記述より，思いやる心を基として公正・公平な価値観が揺り動かされたように感じられた。

2. 授業構成・展開上の工夫の成果

授業構成の工夫として，いじめ防止のための内容項目，いじめ資料，４つの学習活動の設定，いじめの四層構造の心情を扱い，２時間連続の授業設定，黒板シアター形式の板書の４点と，授業展開上の工夫として４つの学習活動それぞれにテーマ発問，イメージマップ，発問，学習ツールの活用，話し合い活動，ノートを用いた振り返りなどの工夫を行なった。それぞれ一つ一つの工夫については明確な効果を検証できていないが，意欲的に児童が取り組んでいた様子から，主体的な授業が展開されたものと考えることができる。

3. 課　題

課題として，本実践は，児童の振り返り記述を中心に分析，検討したものである。したがって，効果の検証がある側面での捉えであること，授業構成上の工夫や展開の工夫の個々の成果を検証していないことである。今後の実践研究では，さらに多面的な評価を用いて妥当性と信頼性を高め，児童の道徳的実践の実現に寄与できるように工夫をしていきたい。

＜文　献＞

浅見哲也，平成30年度道徳教育指導者研修　参考資料関連資料，独立行政法人教職員支援機構，2018.

今村葦子，泣き虫　道徳　きみがいちばんひかるとき５年，光村図書，pp. 46 － 53，2009.

文部科学省，小学校学習指導要領，http：//www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_1.pdf（アクセス確認 2019，1，15），2015.

文部科学省，平成26年度　児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査，2017a.

文部科学省いじめの防止等のための基本的な方針（平成29年３月改定），2017b.

文部科学省，小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編，2017c

森田洋二いじめとは何か　教室の問題　社会の問題，中公新書，2010.

武蔵村山市立第八小学校，平成　29年度　文部科学省研究開発学校実施報告書（要約），http：//www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kenkyu/htm/08_news/__icsFiles/afieldfile/2018/02/15/1400936_2.pdf　pp（アクセス確認2019，1，15），2017

永田繁雄　テーマ発問とは　道徳教育　８月号　明治図書，pp. ４－８，2014.

中島いずみ，いじめをしない，許さない心を持つ児童の育成　前橋市総合研究プラザ研究紀要　平成26年度研究研修事業報告，pp. 50 － 65，2015.

田中健一・嶺井勇哉・吉田孔一，いじめ問題に対応する小学校道徳授業の構想と実践，創価大学教育学論集第68号，pp. 221 － 250，2017.